

大道中学校創立60周年記念ショートムービー「大道中今昔物語」

▶ イントロダクション 校歌のお話

♪蘭の校章～で始まる大道中学の校歌は、1963（昭和38）年の創立当時は、ありませんでした。

7期の在校生の保護者の中にコロンビアで仕事をしていた方がおられ、そのご縁でコロンビアと専属契約を結んでいた作曲家の海沼實（かいぬまみのる）さんに作曲を依頼することができました。海沼實さんは「お猿のかごや」「みかんの花咲く丘」などのたくさんの名曲を作曲されています。

作詞の島来展也（しまき のぶや）さんは児童文学作家で、横浜市内のたくさんの小中学校の校歌を作詞されています。この海沼、島来の名コンビにより1969（昭和44）年の3月に素晴らしい校歌ができました。

それでは、懐かしい写真をご覧になりながらお聴きください。

<https://daido-net.sakura.ne.jp/wp/2023/03/08/sothugyo/>



いらんのこうしょうかがやくところしゅん



校章は大道中学の裏山にたくさん咲いていたエドネや春蘭の花を先生がデザインしたものです。

1 蘭の校章 輝くところ

▶ 第一部 大道中学が開校した時のお話

大道分校時代（1962年）のご卒業で大道町内会 会長の佐藤邦彦さんに、大道中学が分校として開校した時のお話をしていただきたいと思います。

■ みんなで椅子を運んだ

1961（昭和36）年9月、夏休みが終わり2学期から「六浦中学校大道分校」がスタートしました。そのための「引っ越し」を分校生徒は各自の机と椅子を本校からハンドキャリーをすることとなり、列を組んで約280人が歩いて運びました。



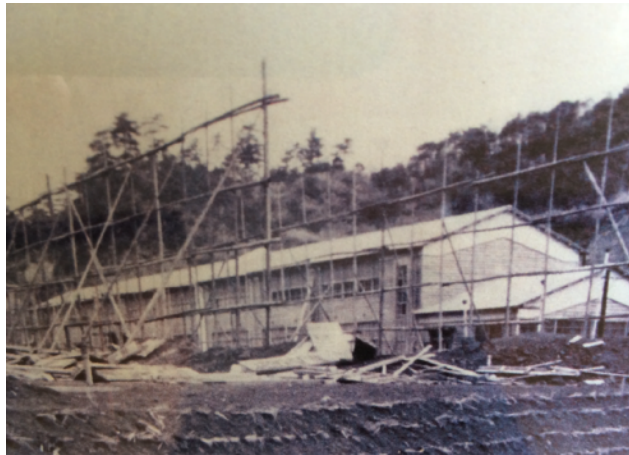
■ ギュウギュウ詰めの教室

私たちの学年は本校・分校併せて14クラス・720人いましたが、そのうち5クラス・280人が大道の分校の生徒で1クラス平均55人が教室に入ると、一番後ろの生徒は黒板に寄りかかって授業を受けている状態でした。



- グラウンドは荒れ放題

最初の頃は「体育」の授業はグラウンドの石コロ拾いが主体で行われました。体格の良い生徒はローラーで地面を平らに整備していました。また、本校時代は多くの生徒（ベビーブームといわれた時代）のため急遽「プレハブ校舎」が建てられ詰め込まれましたが、分校は真新しい木造のため木の香りがしていました。ただ、冬になると校舎の柱が突然大きな裂けるような音がして何度もびっくりしました。



- マムシがウヨウヨ

元々「田んぼ」だったところに建設された学校でしたので、トンボやホタルが群生していました。また、あぜ道の横には「肥だめ」があり、落ちた経験もありました。そして恐ろしい「マムシ」にも追いかけられたことを思い出します。なお、今は全く想像が付きませんが「田んぼ」の奥には「ひょうたん池」というため池があり、夏の暑い日は素っ裸でせり出した木の上から飛び込んで遊んでいました。近所の大人からは、そこには「河童」がいるから気をつけると脅された記憶があります。



- ホタルが飛び、野生の蘭が咲き乱れる裏山

現在は正門を入れて左側にホタルが飛び交う小川が流れていますが、分校当時は護岸もされてなく、きれいな小川で、いつでも水遊びが出来ました。この小川の上の林道はハイキングして鎌倉・天園まで行けるコースになっていました。周囲は雑木林で、エビネやシュンランなどの野生の蘭も多く見られました。蘭の校章は、この野生の蘭がモデルといわれているそうです。



- 楽しかった運動会

運動会は、父兄や町内の人たちも集まって盛大に行われました。騎馬戦や棒倒し、生徒が工夫を凝らした仮想競争や、観客席から傘や帽子を借りてくる借り物競争などがありました。地域の人たちも楽しめるイベントでした。



- 放送部もスタート

「分校放送部」も同時にスタートしましたが、当初導入した放送機器は全国でも初めての機材で操作室とスタジオが分離した本格的なものでした。



▶ 第二部 大道ってどんなところ？

続きまして、大道中学校のご卒業で金沢古文書を読む会などで郷土史を研究されている飯塚玲子さんに大道とその周辺のお話をさせていただきます。

■ 大道に伝わる立派な仏像

大道には、平安時代に作られた立派な仏像（阿弥陀三尊）が本尊であった常福寺というお寺が古くはあったので、鎌倉時代より前から、それを作るだけの財力を持った人がいて、ただの田舎ではなかった様に思います。



今は、常福寺があった場所に、宝樹院というお寺がありますが、その裏山から大道小学校の裏山にかけ、中世の人たちのお墓であるやぐらなどの遺跡がたくさんありました。

また、お富士さんと言って富士山に行けない人のために、そこに登ると、同じように御利益のある小高い山が平成の初めまでありました。そこからは、富士山も見ることが出来ました。昔はお富士さんのお祭りもありました。



- 旅人が立ち寄った鼻かけ地蔵

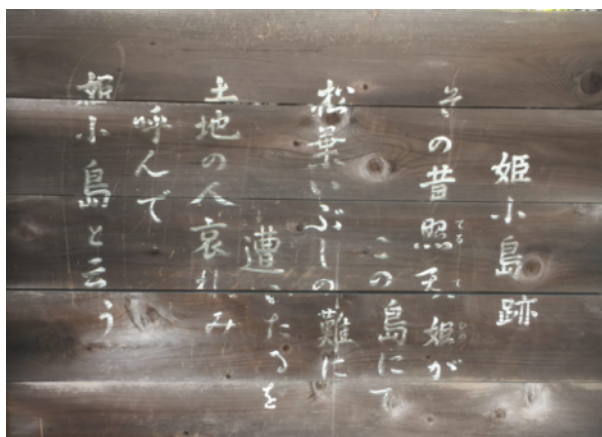
大道中学校のそばにある鼻かけ地蔵も自然の岩壁などに彫った仏像である摩崖仏として大変古く珍しい物です。残念ながら 戦争中に道路を作った時に、鼻かけ地蔵のあった山が、少し削られ、今は、風化してお顔もわからなくなってしまいました。



江戸時代、大道は寺分村と呼ばれていました。先ほどお話した大道にあった常福寺と言うお寺の領地だったからと言われていています。そして、とても良いお米の取れる所でした。侍従川が流れて、井戸の水も良かったことと関係しているかもしれません。畑や塩も作っていました。

- 照手姫という有名なお姫様の伝説

侍従川には、歌舞伎のお話にもなった照手姫という有名なお姫様の伝説がありました。侍従川の名前も、照手姫の侍従から取ったといわれています。また、川にあった千光寺というお寺には、今も照手姫の守り本尊と言われる観音様が 있습니다。金沢八景の瀬戸橋の近くにも、姫小島という照手姫ゆかりの小島がありました。



- 横浜唯一の大名米倉丹守（よねくらたんごのかみ）

大道小学校には、江戸時代に年貢を納めた時の古文書が残っています。横浜唯一の大名米倉丹守の領地でした。また、元禄12年の村の様子が書かれた古文書には、家が30軒あり男の人99人女の人が103人住んでいたと書かれています。これは、大正12年の関東大震災の頃とあまりかわらず、その時は、家が32軒あり、地震で5軒の家が潰れたそうです。山寄りの家は大丈夫で、潰れたのは、田んぼの近くの家だったそうです。今は、廣瀬さんのお話によると大道だけでも1000軒ぐらゐの家があるそうで、住んでいる人も増えました。



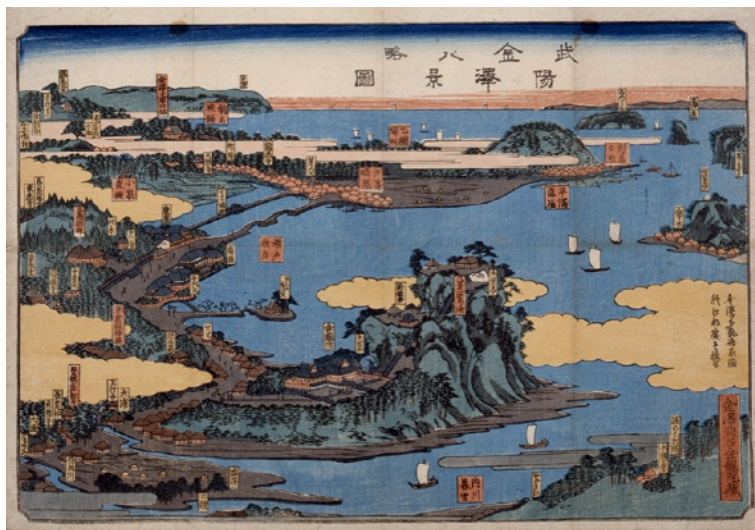
- 当時の流通を支える侍従川

川や三艘などは、江戸時代は、平分村と言われ、侍従川の近くに船を持っている家がありました。侍従川から、野島を経由して江戸日本橋のお店にたくさんの薪を売って、反対に日本橋からは、お茶、紙、水油（これは行燈の油です。）酢、醤油、酒など色々な物を仕入れて商売をしていました。



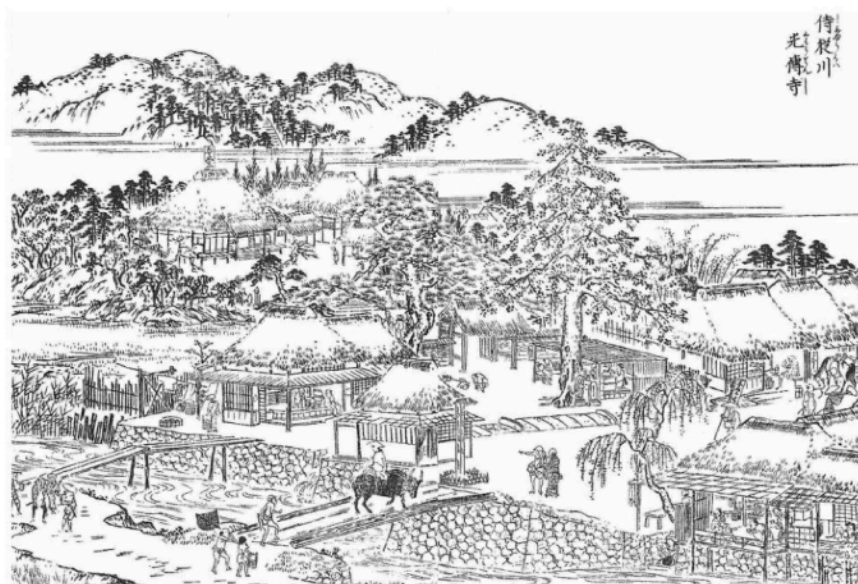
■ 名勝地「金沢八景」

この地域は、江戸時代には、金沢八景として、松島や天橋立などと並ぶ有名な観光地でしたので、観光客もたくさん訪れ、お茶がたくさん売れました。海上安全と墨で書かれたお茶箱も侍従川の近くのお家から発見されています。侍従川沿いには、大きな御蔵をもった商人がいて、大名の米倉丹後守に、御用達商人としてお金を貸していました。



■ 諏訪の橋の近くにあった旅館

大道小学校そばの川の諏訪の橋の所からの中通りは、江戸時代には、たいへんにぎわっていました。日本橋と取引をしていたので、都会の香りのするにぎやかな場所だったと思います。旅館も3軒あったそうです。今でもわずかですが面影が残っています。



■ 大道中学校の奥の「かくら」

大道中学校の校庭の奥は、かくら（かくらのやと）と呼ばれていました。これは瀬戸神社の御神楽の費用を作るための土地でした。明治になって初めて六浦に小学校を作る時に、このかくらの土地を神奈川県が売って小学校の費用の一部にしています。



■ 六浦小学校の前身の三分小学校

この小学校は、六浦のクリエイトの近くに建てられて、三分小学校と言いました。三分小学校の生徒は優秀でしたので、明治42年に神奈川県から奨励旗をもらっています。その後、六浦小学校と名前も変わり場所も移り、今年は、創立150周年を迎えました。



■ 大道の県営アパートは桃畑

西大道から大道にかけての住宅は、昭和16年頃、戦争のために作られたのが始まりです。横須賀の海軍工廠へ通う工員たちのために大道の田んぼを潰して住宅が作られたのです。38人の地主の人に「戦争は二年で勝つ。そしたら元通りにして返す」と海軍の人が言ったそうです。



大道の県営アパートの所は桃畑でした。桃の木が300本も植えてあり、花が咲いた時はとても、のどかなきれいな景色でした。西大道にあったお風呂屋さん「大道湯」も、その時、軍が作って払い下げをした物でした。大道小学校が出来た昭和19年には小学校に兵隊さんがいる時は、生徒はお風呂屋さんで机を並べて勉強したそうです。お風呂屋と言えば、明治の終わり頃、川の中通りにあった、この地域唯一のお風呂屋さんは、夕方お風呂が沸いた時に、おばあさんが、ほら貝を吹いて、お湯が湧いたことを村の人たちに教えたそうです。



まだまだ、お話ししたいことはありますがお時間が来ましたのでここまでにしたいと思います。この地域には、たくさんの歴史があります。その歴史を知ってこの土地を好きになって頂ければうれしく思います。